

進捗状況の概要 【1ページ以内】

本補助事業は、ロシア6協定校（モスクワ国立大学、モスクワ国際関係大学、ロシア人文大学、高等経済学院、サンクト・ペテルブルグ国立大学、極東連邦大学）との交流を拡大し、1）短期留学プログラム、2）長期留学プログラム、3）インターンシップ・プログラムにより、言語力、ロシア及び日本に関する教養・知識、経済についての知見、交渉力・調整力を併せ持ち、両国間の経済・文化交流を現場で支える高度な「日露ビジネス人材」を育成することを目的としている。

この目的を達成すべく、採択初年度の2017年度には、全学の総合戦略会議の下に置かれた教育アドミニストレーション・オフィスに「世界展開力（ロシア）ワーキンググループ」を設置し、全学的な体制で事業を推進した。また、外部評価委員会の体制を整備し、毎年度末に外部評価を実施した。

◆短期留学プログラム

（派遣）モスクワ大学及び極東連邦大学での短期留学プログラムには、2年間で計画を18名上回る46名が参加し、ロシア語の集中学習を通じ語学力を向上させるとともに、文化・歴史について理解を深めた。

（受入）2018年度が初年度となるタンデム学習と国際日本学から成る2週間のプログラムで、ロシア協定6校から計画を3名上回る29名が参加した。タンデム学習を通じ受入学生が日本語運用能力、コミュニケーション能力を向上させた。国際日本学は学生の母語であるロシア語で教授し、日露ビジネス、日露関係、日露交流史、日本文化をテーマにした集中講義の内容を深く理解することに貢献した。また一日企業研修では3企業を訪問し、日露ビジネスの現場に触れる機会を提供した。

◆長期留学プログラム

（派遣）ロシア6協定校との交流協定に基づき、各年度計画を1名ずつ上回る32名を派遣した。ロシア語力を高めるとともに、ロシア史、ロシア経済、統計学、マクロ経済学、国際関係、マスコミ論等の科目を履修した。また、現地でインターンシップに参加しビジネスの現場で働く人々の生の声を聞き、日露ビジネスについての認識を高めた。

（受入）日本語科目履修で日本語の運用能力を高め、日英両言語による開講の「文化のおもしろさ」、「国際機構論」、「世界の中の日本」等の他の科目を学ぶことで視野を広めるとともに実践的英語能力を磨いた。また、本学学生とのタンデム学習会にも参加し語学力向上と本学のロシア語専攻学生との交流を深めた。さらにインターンシップや他の交流プログラムに積極的に参加し、日本及び日露ビジネスに関する視野を広めた。

◆インターンシップ

主に本学OB・OGで日露ビジネスの経験者を束ねるTUFSD日露ビジネスネットワークの協力のもと、日露の学生にさまざまな業種の受入先で多様なインターンシップを提供することで、学生の仕事観の形成に役立ち、進路について真剣に考える契機を与えることができた。2017年度にロシアで計13件・延べ49名が、2018年にはロシアで計24件・延べ95名、日本で計15件・延べ88名の日露の学生が参加した。また、一部のインターンシップを就業体験科目に設定し、受入学生5名が参加し単位を認定した。

◆実学教育強化の取り組み

TUFSD日露ビジネスネットワークの構成員が講師となる「日露ビジネス講義」（2018年度春学期より）、「ロシア語医療通訳入門」（同秋学期より）、日本在住のロシア語話者が講師となる「国際日本学」（同夏学期より）を通じ、日露の学生に日露ビジネスの実相を学修する機会を提供した。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

2017年度				2018年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
28人	39人	15人	8人	30人	39人	41人	46人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

◆ 実学教育強化を含む RJIプログラムの導入

第一回外部評価委員会・有識者会議（2018年3月）での委員からの提言を契機に、本学の本事業対象学生が到達すべき外国語力基準（ロシア語・英語）、履修すべきビジネス関連科目、参加すべきインターンシップを明確に可視化したRJIプログラムを導入した。外国語力では、本学の派遣学生が現地で120時間以上のロシア語の授業を履修するなどにより、ロシア政府公認のロシア語検定試験TORFLの第2レベル以上に合格すること、英語ではTOEICで800点以上に到達することを求めている。また既に開講されている、日本を深く知るための科目、経済・経営科目の一部、新規開講のビジネス関連科目を履修することも求めている。新規開講科目には「日露ビジネス講義」（春学期）、「国際日本学」/「日露タンデム学習」（以上夏学期）、「ロシア語医療通訳入門」（秋学期）、2019年度秋学期からの「駐在員のロシア語」（ビジネスロシア語）があり、このなかから3科目を選択履修する。さらに国内外で実施されるインターンシップに2回以上参加し、報告書を提出することにより修了証明書が発行される。同プログラムの導入で到達目標を可視化したことにより、学生の本事業への参加意欲を高めることにつながっている。

◆ TUFSD日露ビジネスネットワークによる支援

主に本学OB・OGで日露ビジネスの経験者を束ねる TUFSD日露ビジネスネットワーク（ビズネット）が、本事業による日露双方でのインターンシップの機会創出をサポートしており、実学強化の一環であるビジネス関連科目（「日露ビジネス講義」等）の新規開講に当っては、講師派遣あるいは紹介役として深く関わっている。また、本学OB・OGの親睦を図る東京外語会のモスクワ支部は本学の派遣学生と定期的に交流し、学生のさまざまな相談に対応している。このように卒業生ネットワークと連携することにより、現役学生を良きビジネス人材に育てる環境整備を進めている。

◆ リスク面にも配慮した多種多様なインターンシップの提供

（特長）

- ・インターンシップをタイプ別・業種別に6つに分類・集計し、多様性の確保に役立てている。
- ・受入先企業・団体の業種は、製造業、エンジニアリング、建設、コンサルティング、旅行代理店、マスコミ、文化交流など多岐にわたる。
- ・ロシアでのインターンシップ実施については、リーガルチェック（移民法・労働法等）を実施し、リスクマネジメントを図っている。
- ・在モスクワのコーディネーターが引率やインターンシップ実施報告書作成等についてサポートを実施している。
- ・モスクワ大学主催の短期留学プログラムに組み込んだ会社ツアー型インターンシップを同プログラムに参加する日本の他大学の学生にも解放するなど、日露双方の学生に柔軟なプログラム運営を行っている。
- ・日露の学生が合同で参加するインターンシップを実施し、学生間交流を促進している。
- ・同一企業の本社（日本）、支社（モスクワ）でのインターンシップを連続して実施することにより、日露ビジネスを比較する機会を提供した。

（実績）

- ・2017年度にロシアで計13件・延べ49名が参加。
- ・2018年にはロシアで計24件・延べ95名、日本で計15件・延べ88名の日露の学生が参加。
- ・一部のインターンシップを就業体験科目に設定し、受入学生5名が参加し単位を認定。

◆ 学内外での交流を活発化

日露学生間の交流の場として「日露タンデム学習会」を2018年度より通年で実施している。また、日本文化・社会理解促進の場として、受入学生と地域コミュニティとの交流を活発化させた。

本学との間で「連携・協力に関する基本協定」を結んでいる創価大学の仲介により、創価高校のロシア語の授業では、本学の受入学生が継続的にティーチングアシスタントを務めており、近隣の若葉台小学校では、4年生の国際理解の授業で、本学の受入学生3名がロシアについて日本語でプレゼンテーションを行っている。